

今、考える 本人支援 ・ 家族支援

全12回

チームオレンジについて、神奈川県公式サイト^(注1)には、「オレンジパートナーなど、ステップアップ講座を受講した認知症サポーターが中心となって、地域ごとに支援チームを作り、認知症の人やその家族のニーズにあった具体的な支援につなげる仕組み」とあります。やや漠然とした目標に中身を盛り、味付けをして器を形づくろうとする神奈川県支部の新たな挑戦の報告です。



第9回 「チームオレンジ」

一大事なのは器より、地方(地域)独自の中身(内容)と味付け

神奈川県支部会員・オレンジパートナー担当 水越 千文

「上からいろいろな案件が(現場に)おりてくる。対応するのがつらい」(町役場認知症担当職員)、「事業に役所が絡むと手続きが煩雑で、金銭・目的・実践が限られてしまう。自分たちはノウハウを持っている。もう少し自由にできないか」(活動支援団体代表)、「チームオレンジ推進には認知症の本人や家族がどう思っているのか、何をしてほしいのか知ることが必要」(「家族の会」世話人)。これらは私が担当するチームオレンジ推進の研修や会合で聞いた印象深い言葉です。

『全国の市町村でチームオレンジ^(注2)を整備する』と国が方針を決め、その目標として掲げた2025年が近づいています。すでに動いている自治体、これから本格的に動き出す自治体と状況は様々です。

●オレンジパートナー事業スタートと 新型コロナウイルス感染症

「家族の会」神奈川県支部は2019年度、ボランティア活動に積極的に参加する人材育成のため、認知症サポーターを対象とした「オレンジパートナー養成研修」事業を神奈川県から委託されました。世話人会では、新事業を担当する世話人の負担感から躊躇する意見が多かったのですが、①県からの信頼に応え

ること ②会としても関心を持つ人たちとのつながりが得られるよい機会となりうること ③世話人以外の担当者を探すこと ④担当を代表・副代表にすることを確認して受託することを決定しました。同年度のオレンジパートナー研修修了者は約500名(県社協が行った2018年度分と合わせ約1,000名)でした。

2020年度から県の意向で、事業はチームオレンジの推進支援となります。2名のオレンジチューターと共に、コーディネーターの養成を始めた矢先、コロナ禍で開催形式や回数の見直し、参加者減と打撃を受けました。支援活動を一時休止した団体も多く、参加は自治体の認知症施策担当者や包括支援センター職員、地域推進員、キャラバンメイトに限られる状況でした。ある研修時、運営を手伝ってくれていた「家族の会」世話人の男性に、司会の私が事前打ち合わせ



「そらとうみとたいようと」の会オレンジカフェ

もなく、いきなり感想を求めた際の答えが冒頭の言葉です。それまでチームオレンジの解釈やコーディネーターの役割などが話の中心で、チームオレンジの箱作り論ばかり。一番肝心なこと、大切なことが欠けていたと痛感させられた忘れられない瞬間でした。

●主役は認知症の本人と家族、活動支援団体

チームオレンジでは認知症の本人と家族の参加がうたわれています。本人や家族のサポートには、関係機関・自治体・活動支援団体・企業・地域の方々の協力が欠かせません。特に活動支援団体には認知症の本人や家族が多く参加されていて、本人と家族の意思に沿った個性的なチームオレンジを創るノウハウが蓄積されています。

2021年度以降のコーディネーター研修では、企業や活動支援団体の人たち、認知症の本人と家族の参加が徐々に増え始めました。県内南足柄市、秦野市、横須賀市、愛知県常滑市など各事業担当者からの活動例紹介や活発なグループワークも行いました。しかしながら約1,000名のオレンジパートナー研修修了者の参加は芳しくありませんでした。

●課題はボランティアに新たな世界に踏み出してもらうこと

事業は継続することが大事ですが、活動内容の現



左写真と同会の清川やまびこマラソン参加の様子
(写真はすべてプロジェクトリーダー寺田裕介さん提供)

プロフィール



水越 千文

「家族の会」神奈川県支部会員・
オレンジパートナー担当

通信社に37年間勤務。本社以外では全国7府県の勤務経験あり。東日本大震災の前後に勤めた前橋、水戸、さいたま各支局には思い出が多い。自治体との関わりが多かったが、認知症取材はなかった。退社後、目指すセカンドキャリア実現のため産業カウンセラーの資格を取得。特養とデイサービスで認知症本人への傾聴ボランティア、地域の発達障害児(者)支援、まちづくりNPOのボランティアなどを行っていた最中に、神奈川県支部の杉山孝博代表と偶然出会い現在に至る。

実的な見直しや、活性化のための新しいアイデアを加えることはどんな組織にも不可欠です。新しいアイデアのヒントは様々な社会経験を積んでいる発想豊かな人たち(例えばオレンジパートナー)が持っていると思います。

国や県が描くグランドデザインをテーブルプランに終わらせないため、チームオレンジの実現には①認知症の本人や家族の意思を最大限尊重する②自治体や各地域の特色・自主性を認め、実績のある活動支援団体の協力を得る③活動の新たな担い手となるボランティアを包み込む(仲間にする)一ことが求められます。かつての私がそうであった認知症を対岸の火事と思っている多くの人たちに、『他人ごとではない認知症の現実を見て、知って、何かを感じて新しい世界に一步踏み出してもらう』にはどうしたらいいのか。チームオレンジ推進につながる難題に対し、どう行動したらいいか試行錯誤を重ねる毎日です。

(注1) 詳しくは<https://orangepartner.pref.kanagawa.jp/>参照

(注2) チームオレンジの概要は全国キャラバンメイト連絡協議会 <https://www.caravanmate.com>参照

次月号は、受診から支援につながるまでの空白期間をなくす鳥取県支部の取り組み(仮題)です。

本人登場

私らしく
仲間とともに
No.206

高知県支部 山中しのぶさん(45歳) ~その2~



デイサービス「でいさあびすはっぴい」にて

息子さんの言葉かけがきっかけで診断に至った山中さんですが、検索で得た情報は悲観的なものばかり。落ち込む日々のうちに、丹野智文さんから送られた本に、勇気と希望を得て、自ら法人を立ち上げ、理想とするデイサービスを賛同者とともに運営。そして、講演や啓発活動など、意欲的に取り組んでいます。今月も本人の原稿から紹介します。

(編集委員 松本律子)

● 当事者との出会い、笑顔にしてくれた一冊の本

診断を受け、いろんな情報に接するうちに、落ち込んでいました。相談機関も紹介されましたが、病気のことをまだ知られたくない気持ちもあり、行けませんでした。

今まで、何十人の方とお会いしましたが、初めましての方に、すぐ困りごとを相談できる状態ではありませんでした。私の気持ちはわからないと心を閉ざしてしまっていました。

そんな時、すでに活動されている丹野智文さんに出逢い、一冊の本を送ってもらいました。

私も営業の仕事をしていたので、共感する部分が多く本を読み終わる頃には笑顔になっていました。私と同じ認知症でも笑顔で今を生きている方がいる。私も負けていけない。笑顔で生きようと思いました。

● 退職し、自身の居場所探しを始める

昨年6月、15年勤務した職場を退職し、自身の居場所を探したいと、東京にある「DAYSBLG !!はちおうじ」を見学する機会を得ました。その時、見たデイサービスの風景は今まで見たことのない環境で、メンバーさんやスタッフがフラットな関係でした。一番驚いたのは、メンバーさん同士の会話が多いこと、高知にこん

な施設をつくりたい! と思いました。

● 法人「セカンド・ストーリー」を立ち上げる

2022年4月法人を設立しました。名前は「セカンド・ストーリー」。認知症になってからの私の第二の人生が始まりました。私の思いに賛同してくれる仲間もでき、2022年10月「でいさあびすはっぴい」が開所できました。誰もがひとりと感じない居場所。「はっぴい」に来ると楽しい。また来たい!と思えるような居場所に、みんなとつくっていきます。

2022年7月「高知県希望大使」に委嘱されました。住み慣れた町で安心して暮らしていけるよう普及啓発活動や認知症サポーター養成講座や子ども対象の講演も行っています。正しい知識と理解、伝えることの大切さ、また、子どもたちから教えていただくこともたくさんあります。

治るものなら完治したいですが、今は認知症も悪くないなあと思えるようになりました。



「セカンド・ストーリー」を語る

情報
コーナー本人交流の場
(詳細は各支部まで)

北海道●1月6日金13:15~15:30

本人の「つどい」→かでの2.7

山形●1月18日水13:30~15:00

なのはな→さくらんぼカフェ

埼玉●1月28日土13:30~15:30

若年のつどい飯能→飯能市市民活動センター

神奈川●1月8日土13:00~15:30

本人と家族のつどい→横浜市二俣川地域ケアプラザ

岐阜●1月7日土13:30~15:30

あんきの会→土岐市文化プラザ研修室

静岡●1月10日水10:00~12:00

若年性のつどい→富士市役所

和歌山●1月8日土13:00~15:00

若年性認知症交流会→ほっと生活館しんぼり

広島●1月14日土11:00~15:30

陽溜まりの会広島→広島市中区地域福祉センター

徳島●1月21日土13:30~15:30

縁の会→県立総合福祉センター

長崎●1月10日水13:30~15:30

本人・若年のつどい→させば市民活動交流プラザ

1月21日土13:30~15:30

本人と家族のつどい→小島居諫早病院デイケア室

熊本●1月7日土13:00~15:00

若年のつどい→県認知症コールセンター

新型コロナウイルス感染の影響により、変更ないし、中止となる可能性があります。



• お便りお待ちしております！ •

〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル2F
「家族の会」編集委員会宛

【F A X】 075-205-5104

【Eメール】 office@alzheimer.or.jp

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

デイサービスを嫌がる

大阪府 Aさん (70歳台 男性)

80歳台・要介護1の妻にデイサービスを勧めているが、嫌がる。ここ数カ月で認知症は進行し、時々不安そうな表情も見せる。先日、思いあまってケアマネジャーに相談した。訪問リハビリでもと考えているが、妻にほめめかすと嫌だという表情をした。「これは要介護になった人は皆受けるものだ」と言って勧める予定でいる。私は仕事があるので、休みの日に訪問リハビリをお願いする予定。

私は老健施設の医師だが、妻の認知症で悩んでいる。娘は二人いて、一人は医師、もう一人は理学療法士だが、相談にもものってくれない。ここ数年妻にも会っていない。私と妻の間に誰か介在してもらいたい。妻であっても、ここ1年で認知症が急速に悪化していることに気が付かなかった。



診断から早や10年

神奈川県 Bさん (60歳台 女性)

友人のケアマネジャーから「家族の会」の存在を教えてくださいました。90歳台の実母の認知症診断から早や10年以上経ちます。2年前からようやくデイサービスにも行ってくれるようになり、その他のサービスにもつながることができるようになりました。それまでがとても長かったように思います。近所には母と同じ世代の方々がたくさんおられます。その方やご家族にもこの会の存在をもっと知っていただけたようにしたいと思います。

終活すべきことは？

福井県 Cさん (80歳台 女性)

夫、姉がレビー小体型認知症、パーキンソン病でした。姉の物盗られや被害妄想の介護では、早めに施設入居が必要と思いました。財産があったため、妹一家から狙われました。

ひとり暮らしの私が今、終活すべきことは、早めに成年後見制度を利用する、または、近所居住の次女一家にすべて頼る決心です。次女の夫がパーキンソン病なので、介護がいつから始まるのかを想像すると、私と二重介護になるかも…と、あらためて、私自身、どこで誰と、どのように生活するのかを考えねばと思案中。

がんこで話を受け入れません

山口県 Dさん (60歳台 女性)

一人暮らしをしている父親は物忘れがありますが、どうにか生活はできています。公務員として一家を支えてきたという思いがあり、がんこで、子どもたちの話の受け入れが難しいです。

それでもどうにか介護申請をし、要介護1となりました。デイサービス(リハビリと言っています)を週1回利用できました。妄想があり、「子どもが来る」「大人も来る」と言い、そのため食事の用意をしています。妄想に対して否定してはいけない、でも同意もいけないと言われますが、具体的にはどうしたらいいのでしょうか。毎回否定せずに「子どもの名前聞いたら?」「食べないなら、食事の用意をしなくてもいいのでは?」と言っています。

脳クリニックを受診できたのですが、CTは異常なし、薬で治らないのでと先生から言われ、何も処方されていません。

私の8050問題

新潟県 Eさん (40歳台 女性)

私は一人で両親の介護を25年くらいしてて、5年前に父が肺炎で亡くなり、今は要介護5の母を在宅で介護していて、母に振り込まれる遺族年金で暮らしています。母が特養に入居したり、死後は収入がなくなるため、私自身の生活が困窮するなって思っていた矢先、新聞で引きこもりの特集をやっていて、感想を手紙にして出したところ、取材されました。記者さんに、母の死後収入がなくなり生活が行き詰まることを、どこに相談したらいいか聞いたところ、社会福祉協議会に相談することを勧められました。ケアマネジャーが訪問して、引きこもりの子どもが見つかる場合もあると思います。私は幼い頃からずっとイジメにあって、仕事も長く続かず、在宅介護をきっかけに引きこもりです。8050問題を「家族の会」でも調べて声をあげてもらいたいと思っています。

笑顔で生き生きと付き合っていってほしい

愛知県 Fさん (50歳台 女性)

「自分らしく、住み慣れた地域で暮らしていくには、どのように過ごし、年を重ねればよいのか」について長年学習してきたグループのメンバーの一人がアルツハイマー型認知症と診断されました。今まで通り引き続きメンバーでいたいと本人の申し出で、体調に合わせて参加してもらっています。しかし、出かけて参加するのは疲れるからと、夫からやめるように言われているとのこと。自分の思い、気持ちを夫に話したくても、上手に伝えられず、もういいか…とあきらめてしまうそう。ご主人と二人暮らしで、夫から避けられているようで、淋しいとも。

通い始めたデイサービスもどの人も表情が乏しく、ボーっとしていると話してくれました。彼女らしい姿で過ごせるデイは必ず見つかるからケアマネさんに相談してねと伝えたら、社交ダンスのアクティビティのデイが見つかったそうです。感謝です。笑顔で生き生きと認知症と付き合っていってほしいです。

まずは私から…

東京都 Gさん (50歳台 女性)

50歳台の夫はまだ病気を受け入れるに至っていません。現在は休職中です。若年性のため、サポートを受ける方法や日中の過ごし方、家族としてどう関わっていけばいいのかわからず、近くに頼れるところがないことが不安です。まずは私だけでも、同じ病気の皆さまやご家族とつながりたいと思います。実母も認知症で、都内で一人暮らしのため、世話をしに通っています。

※お名前はイニシャルではありません。年齢は「50歳台」等で表記しています。